

市議会臨時会[8月]

提出議案の概要について



本物力こそ桑名力

第5弾

桑名市

緊急新型コロナウイルス感染症対策



本物力こそ桑名力

令和2年8月臨時会の主な議案



補正予算の規模

一般会計補正予算（第8号） 補正額 2,579.1万円

補正予算の概要

- ① 桑名市総合医療センターに対して病院事業運営費特別交付金を交付【2,000万円】
- ② 子育て世帯が必要とする手続きの一部についてオンライン化を導入【579.1万円】

病院事業運営費特別交付金

目的

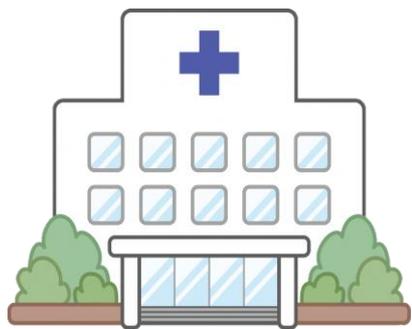
新型コロナウイルス感染症から市民の命を守るため、厳しい経営状況下においても、地域医療の中核を担う病院として貢献している桑名市総合医療センターに、市が設置者として支援を行い、地域住民のセーフティネットとして医療体制を堅持していただく。

交付金額

2,000万円

財源

新型コロナウイルス感染症緊急対策基金



5月に創設された新型コロナウイルス感染症緊急対策基金の財源となった、市議会議員の期末手当及び政務活動費の減額分及び市特別職の期末手当減額分は、コロナウイルス感染症の防止と収束に向け、最前線に立つ医療機関への医療提供体制の維持に充てることを目的としている。

地域医療体制の堅持

感染リスク防止対策

通常診療の継続

医療体制の整備

桑名市

病院事業費特別交付金

国・県

新型コロナウイルス感染症緊急包括交付金（医療分）

コロナの影響により…

入院・外来患者の減少

経営状況の悪化

医療従事者の疲弊



市役所窓口「密」対策

◆ 「桑名市×LINE」 ◆

子育て世帯のオンライン申請を推進します！

◆ 「新たな日常」の実現 ◆

= “ポストコロナ時代”を見据えた変化へ対応 =

移動の抑制

三つの密
対策

人との接触
の低減

“Withコロナ”“Afterコロナ”の中で人々の暮らしや社会環境等のスタイルは大きく変化している。感染拡大防止のためにとられた移動抑制や人と人との接触の機会の低減する中で、社会のデジタル化の必要性が改めて浮き彫りとなった。しかし、行政の分野においては、申請手続きなどのオンライン化が十分に進んでおらず、利用する市民目線でのさらなる利便性の向上を図る必要がある。

◆ 新たな社会への対応 ◆

= Society 5.0の社会環境等のスタイル =



人々の価値観・趣向、ライフスタイル等が加速度的に変わっていく中、行政もこれらの変化に対応するための持続可能な行政運営を進める必要がある。

◆ 行政のデジタル化 ◆

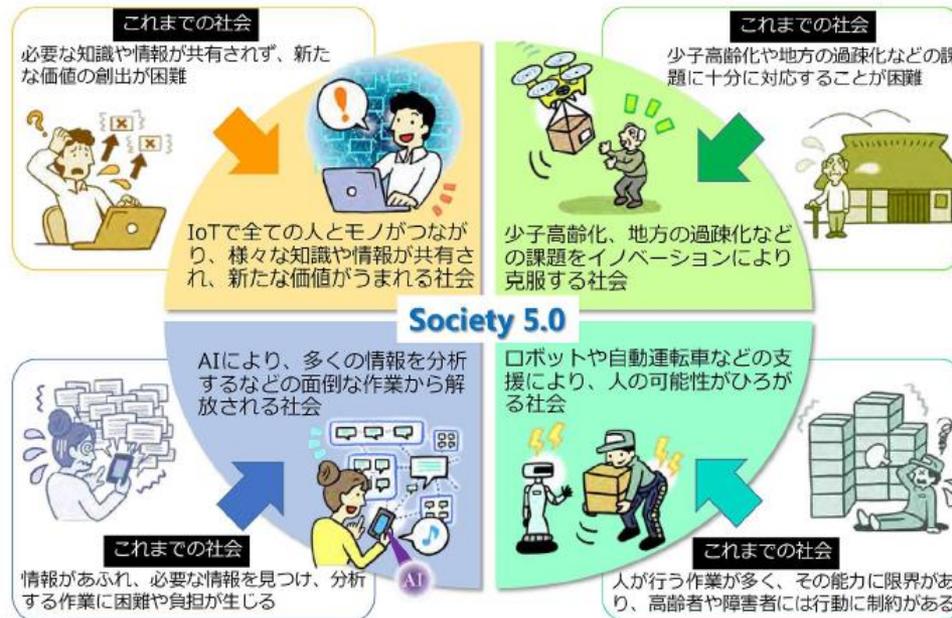
= Society5.0時代のスマート自治体へ転換 =

〈Society 5.0で実現する社会〉

IT技術活用

生活スタイル

ICT・アプリ活用



[内閣府作成]

オンライン化
デジタル化

ビジネス

テレワーク
オンライン会議



今後は、デジタル化推進をこれからのインフラ整備と位置づける「デジタル・ニューディール」を推進し、行政サービス、特に窓口での手続きについてさらなる改革を進めてく。

子育て世帯オンライン申請推進事業



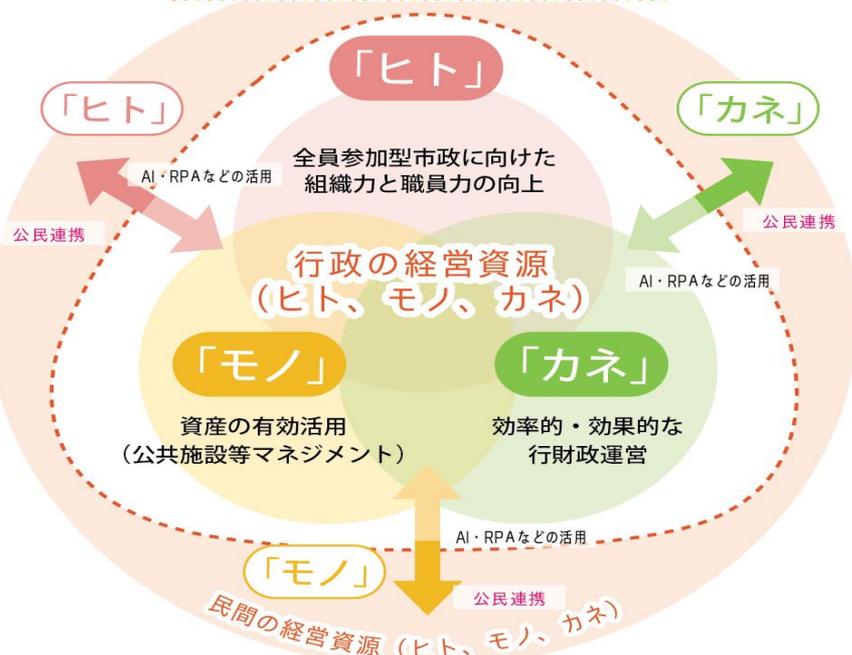
本物力こそ桑名力



◆総合計画のアプローチ◆

= SDG s 持続可能なまちづくりのビジョン =

「スマート自治体」への転換



ゆるぎない総合計画の推進



スマートフォンのようなスマートで便利な自治体を目指し、技術革新の成果を積極的に活用し、業務の効率化や効果的な行政サービスの提供を図る。

◆推進していく事業◆

= 子育て世帯オンライン申請推進事業 =

社会の変化を展望した制度・慣行の見直し
これまでの書面・押印・対面主義からの脱却

コロナ禍の
意識改革



行政の
あり方改革

ポストコロナ時代へ対応するため
“市民と行政の新しい形”を目指す施策

社会情勢の
変化に対応



非来庁型の推進

行政のデジタル化による抜本的なオンライン導入
電子申請による手続きの簡素化・迅速化

◆「桑名市×LINE」◆ = 公式アカウント開設 = 令和2年9月から

スマートフォンやオンラインでの手続きに普段からなじみのある子育て世帯が、必要とする申請手続きなどをオンライン化することにより、市役所に来なくても手続きを完結させることが可能となり、感染拡大の防止とともに利便性の向上を図る。

※情報媒体の変化 電話→メール→SNS

自治体初!

- ・ LINEを利用した保育所入所の申請書類の提出
- ・ ビデオ通話によるオンライン面接も対応可能
- ・ LINEを利用した保育所入所の面接の予約(既市あり)

◆ 保育所の入所申請の手続き ◆

今まで



市役所へ来て手続き

- ・ 申請書を取りに行く
- ・ 申請書を提出に行く
- ・ 対面で面接を行う



これから



※情報収集・発信はパソコン→スマートフォンで、若い世代ほどこの傾向は顕著

スマートフォンで手続き

- ・ 申請書類を写真に撮ってLINEで申請
- ・ LINEで面接の予約
- ・ ビデオ電話で面接

今後については
非来庁型の推進



◆ 保育所入所事務の今後の方向性 ◆ = 業務改革とオンライン導入のポイント =

窓口での受付

申込内容入力

入所調整

市役所に行かなくてもできる手続きは、
自宅でやってもらえるように
⇒ withコロナへの新しいスタンダードへ

オンライン導入
による効率化

効果



感染拡大の防止、利便性の向上、子育て世帯の負担軽減などのメリットがあり、市民満足度の向上

※自治体の窓口も
紙からデジタルへ

子育て世帯オンライン申請推進事業

◆ 新しい未来への展開 ◆

令和2年10月以降

- 子ども医療費（県外）助成の申請書類の提出
- 妊産婦健診費用（県外）助成の申請書類の提出



〈イメージ〉

さらなる未来

- 申請メニューの拡充と利用度の向上
- AI-OCRを導入した事務処理の効率化
- ニーズに対応するサービス機能の拡充



申請手続

チャット
ボット

施設検索

情報発信

持ち運べる市役所への転換